

A. (再生可能な木質アスファルトの供給による廃棄物抑制と低価格化に向けたプラント改修)

田中建材株式会社

事業目的	<p>木質加熱アスファルトの製造プラント改修により、木質廃棄物の再資源化能力を高め、再資源化の促進及び有価物として利用することで産業廃棄物の減量化を目的とする。</p>																					
事業概要	<p>石粉貯留供給装置導入                  石粉の自動計量及び投入装置の設置により作業効率が向上し、品質の向上や人員削減につながった。</p> <p>仮設建屋式貯留供給装置導入                  従来は、一回ごとに0.6 m<sup>3</sup>の木質チップをプラントに投入していたが、100 m<sup>3</sup>程度貯留、投入できる移動可能な仮設建屋と投入装置を設置したことにより作業効率が向上した。</p>																					
事業結果	<p>今年度の木質加熱アスファルト舗装の施工面積は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、減少した。</p> <table border="1" data-bbox="331 1149 1469 1485"> <thead> <tr> <th></th> <th>工事施工</th> <th>設計予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度(補助事業前)</td> <td>4,734 m<sup>2</sup></td> <td>30,000 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>29年度(補助事業年度)</td> <td>4,054 m<sup>2</sup></td> <td>18,000 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>30年度(補助事業1年目)</td> <td>6,857 m<sup>2</sup></td> <td>25,000 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>令和元年度(補助事業2年目)</td> <td>24,521 m<sup>2</sup></td> <td>40,000 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>令和2年度(補助事業3年目)</td> <td>2,637 m<sup>2</sup></td> <td>10,000 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>令和3年度(補助年度4年目)</td> <td>3,070 m<sup>2</sup></td> <td>13,000 m<sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table>		工事施工	設計予定	28年度(補助事業前)	4,734 m <sup>2</sup>	30,000 m <sup>2</sup>	29年度(補助事業年度)	4,054 m <sup>2</sup>	18,000 m <sup>2</sup>	30年度(補助事業1年目)	6,857 m <sup>2</sup>	25,000 m <sup>2</sup>	令和元年度(補助事業2年目)	24,521 m <sup>2</sup>	40,000 m <sup>2</sup>	令和2年度(補助事業3年目)	2,637 m <sup>2</sup>	10,000 m <sup>2</sup>	令和3年度(補助年度4年目)	3,070 m <sup>2</sup>	13,000 m <sup>2</sup>
	工事施工	設計予定																				
28年度(補助事業前)	4,734 m <sup>2</sup>	30,000 m <sup>2</sup>																				
29年度(補助事業年度)	4,054 m <sup>2</sup>	18,000 m <sup>2</sup>																				
30年度(補助事業1年目)	6,857 m <sup>2</sup>	25,000 m <sup>2</sup>																				
令和元年度(補助事業2年目)	24,521 m <sup>2</sup>	40,000 m <sup>2</sup>																				
令和2年度(補助事業3年目)	2,637 m <sup>2</sup>	10,000 m <sup>2</sup>																				
令和3年度(補助年度4年目)	3,070 m <sup>2</sup>	13,000 m <sup>2</sup>																				
今後の課題と方針	<p>これまで、木質舗装施工現場は関東が中心となっていたが、本年度は関西方面の施工が大半を占めた。今後も関西方面の案件を重点的にフォローし、特に県内での施工が増えるよう営業活動に努めるとともに、産業廃棄物の減量化にも寄与していきたい。また、安価な再生製品を提供し顧客のコストダウン要請に応じ、採用拡大を目指したい。</p>																					